

序

本論文集は、本年3月末日をもって本学経済学部を定年により退任された渡辺朗先生に、深い感謝と惜別の情を込めて編まれたものである。渡辺先生は1969年に本学経済短期大学部に赴任され、1992年の短期大学部の閉学に伴い、本学経済学部経営学史、経営学総論担当教員としてお迎えした。

巻末の著作目録からも伺い知れるように、先生のご研究はドイツ経営学を中心に、経営学の広い分野にわたり、これら先生のご研究は多くの研究者から高く評価されていると伺っている。また、先生のお人柄を慕い、多くの学生が先生の元に集まり、巣立っていった。

学内行政においても、経済短期大学部時代には学生補導委員長を努められ、その運営に中心的な役割を果たされた。そして、短期大学部閉学時には、短期大学部の発展的解消と経済学部昼夜開講制への移行に多大の貢献をされた。経済学部に移られてからは経済学部国際交流委員長として、海外の大学との交流拡大に尽力された。

先生は、日本経営学会、経営学史学会、ドイツ企業研究会でご活躍されるとともに、地域社会においては泉佐野市雇用施策談話会をはじめ、多大な貢献をされた。

渡辺先生の本学に対するご貢献に対して敬意と感謝の意を表するとともに、今後一層のご健勝とご活躍を心よりお祈りする次第である。

2005年4月

和歌山大学経済学会会長

乗 杉 澄 夫